

近畿局と大ト協など 中学生対象に出前授業

「楽器輸送」を紹介

物流業界で将来的に深刻な労働力不足が懸念されている中、近畿運輸局が主催し、大ト協などが協力するスペシャル



越野社長

プログラム「みて、きいて、物流を体験しよう！」が、豊中市立第十八中学校の2年生約80人を対象に、23、24日の両日行われた。

1日目は同中学校での出前授業が実施された。近畿運輸局交通政策部環境・物流課長補佐の渡邊卓

氏が「物流とは」について講演。

続いて事業者を代表し、越野運送（大阪市都島区）の越野泰弘社長が講師を務め、会社のプロモーションビデオなどを紹介しながら、同社の歴史やサービスマ

ンの役割について具体的に解説。越野社長は「運送業は荷物だけでなく、思いもともに運んでいる仕事」と、トラック運

送業を紹介。生徒にとって身近な中学・

高校の吹奏楽部のコンクール会場への楽器輸送や運動部の合宿のお手伝いを手にかけていることなどを紹介した。

講義の終了後は、校庭に展示された4トのウイングトラックを間近で見ながら、生徒らはその大きさと性能に驚きの表情を見せていた。

（木村麻理奈）